



葉頁 (yo-yo) (ようよう) —本で誘う、松永駅南口クリーク利活用計画—

01 松永という場所 —広島県福山市 松永地域— 02 松永の原風景 03 水際の文化 04 クリーク調査

松永は、かつて塩田の町として栄えた。塩の運搬のための川は、現在もクリークとして残っている。

しかし現在、松永駅周辺は通過点となっている。

地域には 福山市松永図書館 が存在するが、市民センター内あり、生活動線から切り離されているため認知性が低い。

「水辺」と「本」という資源がありながら、それらは街の風景と結びついていない。



日本各地には、古くから水と建築が呼応しながら営まれた文化が存在

潮の満ち引きを受け入れるように社殿を構えた厳島神社（広島県）、舟を格納する 1 階と生活の 2 階を重ねた伊根の舟屋（京都府）など、

人々は水を恐れながらも親しみ、環境と対立しない建築をつくってきた。

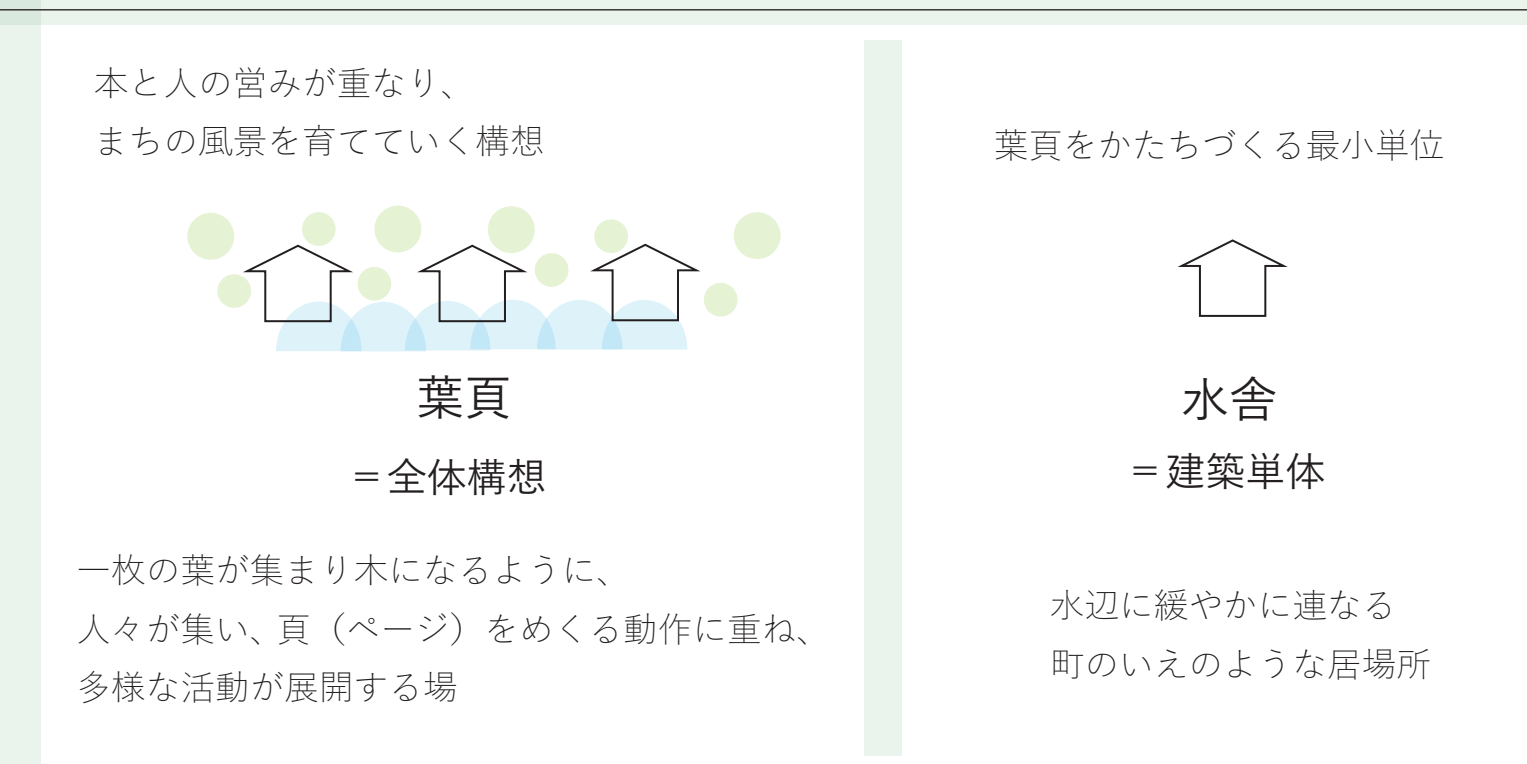
かつて地域の産業を支えた松永クリークは、今や人々の意識から遠ざかりつつある。本計画は、水辺と建築の関係を現代的に更新する試みである。



05 目的 06 葉頁 (ようよう) と水舎 (すいしゃ) 07 実証実験

松永駅周辺の滞留の少なさ+クリークの潜在的価値
→水辺に本を介した小さな居場所をつくる

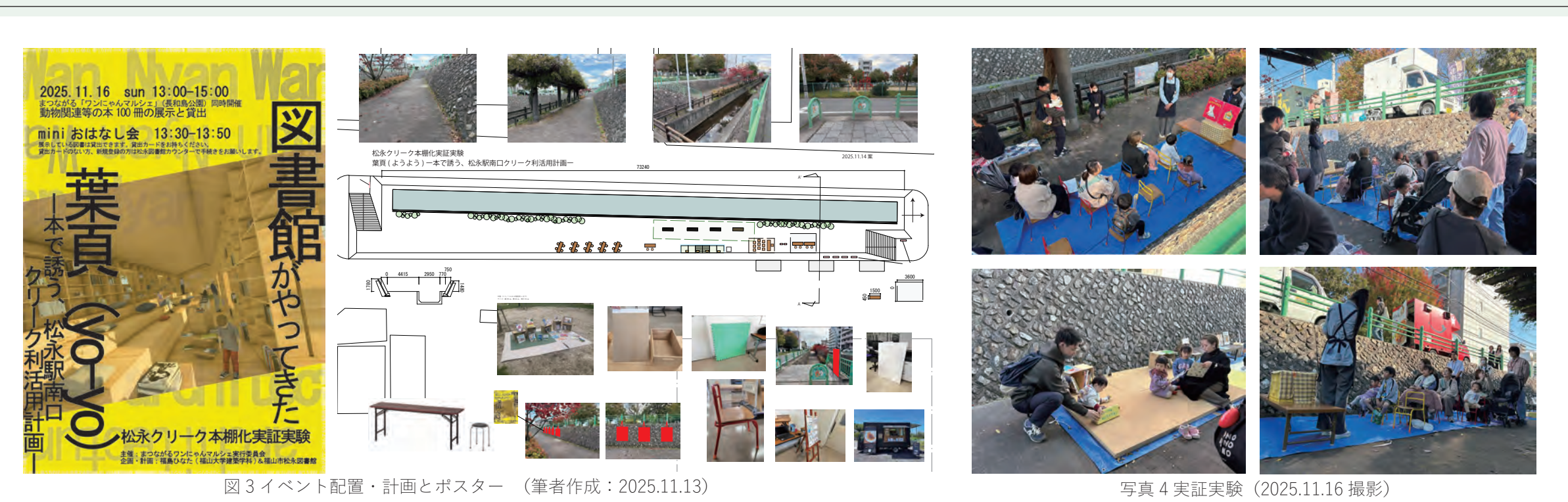
建築に人を集め図書館ではなく、日常の滞留や生活動線に寄り添いながら、本のある風景をクリーク沿いに連ねることを目指す



2025 年 11 月 16 日実証実験
「mini 図書館がやってきた」を福山市松永図書館と開催

図書館の司書が図書約 100 冊を選書し、クリークには本棚、畳、椅子、テント、貸出カウンターを設けて臨時の読書空間を構築した。読み聞かせ、プレゼンボード展示や看板配置も含めて、想定する水舎の実際の運用状況を試験した。

キッチンカーの出店に合わせ、椅子や畳を飲食スペースとしても利用可能にし、水辺空間の多用途な使われ方を観察した。



08 水辺に編み込む設計

ゾーンの別特性	場所の特性	ターゲット	配架 カテゴリー	複合機能
A	松永駅に近い	・学生・会社員 ・駅利用者	・ビジネス本 ・参考書	・お弁当屋
B	全てのゾーンと繋がる場所	・福山大学生 ・高校生	・漫画 ・小説 ・中古本	・学習スペース （個人、集団） ・出展スペース
C	保育所が近くに2つある	・親 ・家族連れ	・子育て ・料理	・習い事 ・相談小屋
D	自動車学校に近い	・自動車学校生	・趣味本	・飲食店 （朝・昼・夜）
E	小学生の通学路の隣	・小学生	・絵本 ・クイズ本	・遊び場

5棟の水舎の分散配置

実証実験を通して、水辺空間は「目的地」よりも、通りがかりに立ち寄れる余白が重要であると分かった。

そこで本計画では、松永クリーク沿いに木造切妻屋根の 9 タイプの水舎を 15 棟、断続的に配置する。

羽原川沿いに見られた、水中に支柱を立て床を張り出す構造をモチーフとし、かつての水辺と建築の関係を現代的に継承する。

道路と余白の再編

A,B,C,D ゾーンの水舎に接する道路は現在対面通行だが、交通量は少ない。

本計画では右回りの一方通行とし、クリーク沿いの歩道を拡張する。

これにより、路上にも滞留空間を確保する。

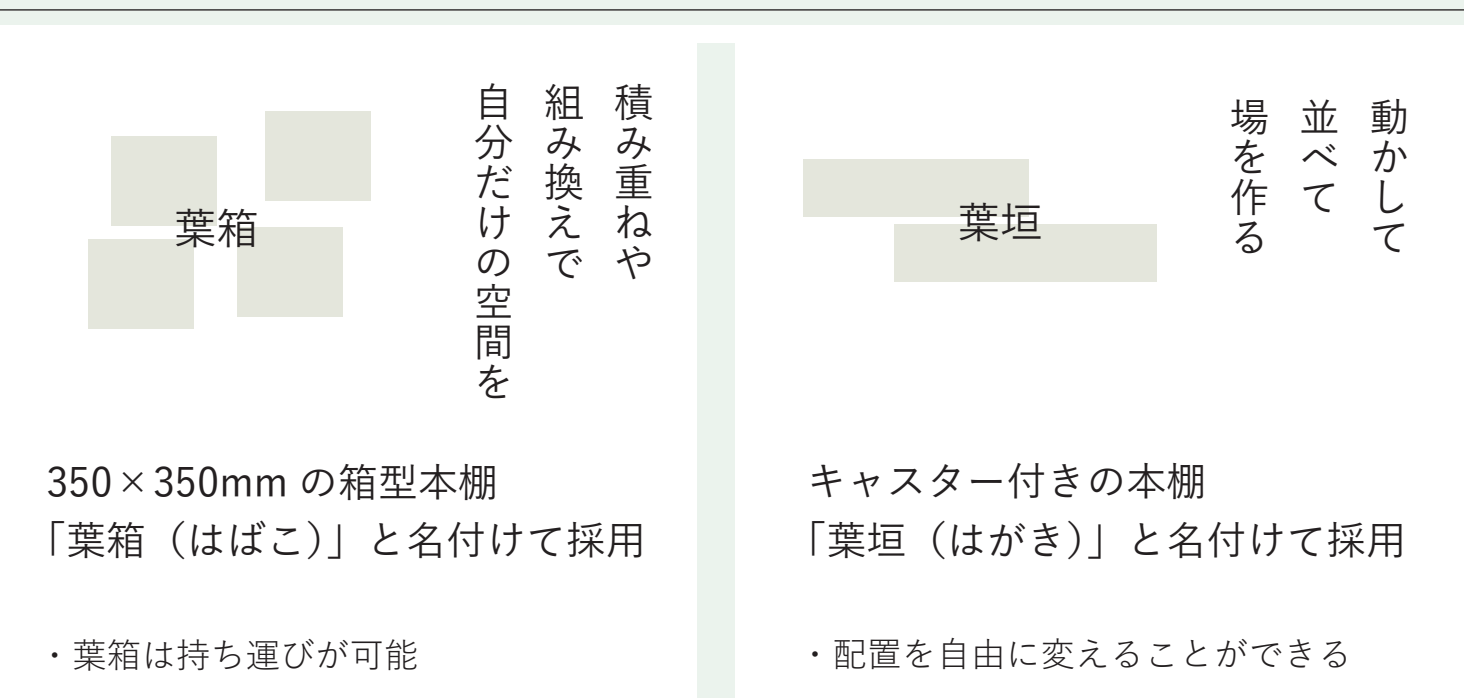
水舎に入らなくても、本の気配を感じられる。通り過ぎる人が、ふと立ち止まれる余白をつくる。

本棚構造体

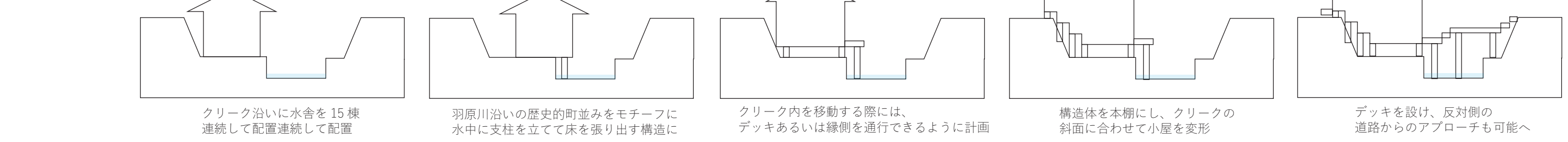
本棚を家具ではなく構造体として扱い、躯体と展示機能を一体化。

内外に連続する棚が、読む・見る・触れる行為を誘発し、水辺に開かれた公共空間を生み出す。

葉箱 (はばこ) と葉垣 (はがき)



Diagram



←松永駅

▼ 15 棟の水舎の分散配置 (9 タイプ)

A

場所の特性	松永駅に近い
ターゲット	学生 会社員 駅利用者
配架カテゴリー	ビジネス本 参考本
複合機能	お弁当屋

駅から人を誘導

水辺の景色を眺めながらお弁当を

A は、駅から近いため、ビジネス本や新刊読書スペースとお弁当屋を併設した水舎で構成される。駅から水舎内部のお弁当屋までの動線は、直線的に計画し、通勤・通学の途中でも立ち寄りやすい構成とした。

長時間の読書行為は主に上段の読書スペースに配置し、通過動線と滞在空間とを緩やかに分離している。読書スペースとお弁当屋キッチン隔着る壁は本棚構造体として計画し、一部を抜いた開口部を通して注文受付や弁当の受け渡しを行う。

水辺側の窓は腰掛けとしても機能し、外部からの利用を受け止めると同時に、内部では動線を妨げない省スペースな滞留空間を形成している。ここでは、購入した弁当を腰掛けて食べることも想定している。

ロイヤルドライビング
スクール福山校

本棚カウンター席でランチ

食事や酒をつまみながら

語らい▽

語らい▽

D

語らい▽

語らい▽

漫画読書

C

習い事

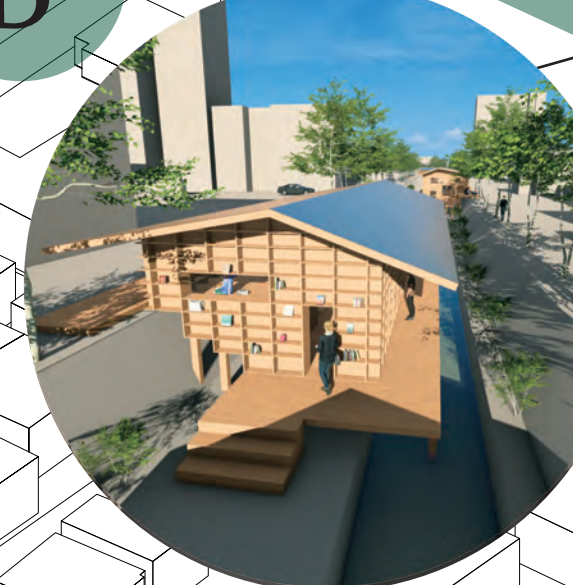
▽習い事

▽習い事

小さな子ども読書
▽相談



ビジネス本読書
& お弁当屋さん▽



個人学習

グループワーク
▽展示・販売



B

場所の特性	全てのゾーンと繋がる場所
ターゲット	福山大学生 高校生 中学生
配架カテゴリー	漫画 小説
複合機能	学習スペース 出展スペース

こもる、学ぶ、ひらく

まちと人をつなぐ核

B ゾーンは、すべてのゾーンと接続する位置にあり、各ゾーンの利用者が交差する場として計画した。小説や漫画など、幅広い利用者が関心を持ちやすい書籍を配置し、主なターゲットを高校生・大学生とする。

B ゾーンには、個人学習のできる水舎、小説読書スペースを備えた水舎、集団学習と月額制で本棚状のスペースを貸し出し、趣味や習い事の成果物、中古本などを誰でも出品できるが可能な水舎、小説読書を備えた水舎と同じ平面構成の漫画読書スペースを備えた水舎の、計4棟を配置する。

展示・出品のための本棚は、学習や読書の場と連続して配置され、学ぶ行為と見せる行為が同時に生まれる空間構成としている。

E

場所の特性	小学生の通学路の隣
ターゲット	小学生
配架カテゴリー	絵本 クイズ本
複合機能	遊び場

くぐる、のぼる、通り抜ける

身体で読む楽しさに出会う場所

E ゾーンは、小学校に近接し、通学路として多くの小学生が行き交う立地特性を活かしたゾーンである。

絵本やクイズ本など、子どもが自発的に手に取りやすい書籍を配置した水舎を2棟設け、学校帰りや放課後に立ち寄れる読書の場とした。

水舎内では、窓際の本棚を張り出して設けることで、寝そべる、寄りかかるなど自由な姿勢で本を楽しめる空間を構成している。水舎とクリークの斜面の間は通り抜けたり、日影で休んだり、潜ったりもできる。

静かに座る読書だけでなく、身体を預けながら本と向き合う体験を通して、子どもが本に親しみきっかけを生み出す。

この計画は、図書館をつくる提案ではなく、本があることで、人が座り、話し、子どもが寝転び、学生が勉強し、まちに小さな居場所が生まれる風景をつくる提案。

水辺に寄り添う小さな本の小屋が連なり、人の行為が重なって、クリーク全体が一冊の本のような空間になることを目指した。

建築で人を集めるのではなく、人の生活の中に建築を差し込む。「本棚でできた建築」が、松永の水辺に新しい日常をつくることを提案した。

福山市立
松永小学校

50m

海→

羽原川→

D

場所の特性	自動車学校に近い
ターゲット	自動車学校生
配架カテゴリー	趣味本
複合機能	飲食店（朝・昼・夜）

飲食 × 会話 × 読書

夜の町にあかりを灯す

D ゾーンは、自動車学校に近接する立地特性を活かし、生徒が授業の空き時間や帰宅前後に立ち寄りやすいゾーンとして計画した。趣味に関する書籍を中心に配架し、本を介した会話が生まれる小規模な飲食機能を備えた水舎を4棟配置する。

各水舎にはカウンター席を主体とした飲食店を設け、利用者が自分の好みのジャンルの本について、食事や酒を楽しみながら語り合える場とした。店舗は朝・昼・夜の営業を想定し、昼間の滞在に加え、夜間にも人の気配が感じられる水辺空間の形成を目指す。

席はテーブル席、カウンター席に加え、本棚構造体の一部を抜いて設けた開口部をテーブルとして利用するカウンター席を用意し、限られた空間の中で多様な滞在姿勢を可能とした。

また、クリークに接する道路沿いには長いベンチを設置し、足を伸ばしてくつろぐ利用や、散歩途中の立ち話、購入した弁当を広げて屋外で食事を楽しむなど、屋内外にまたがる滞留の場を形成している。